

【質問】

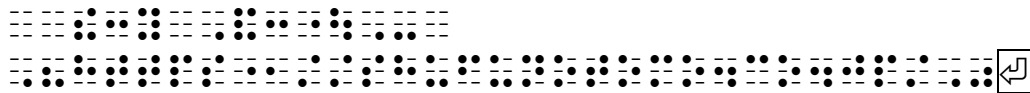
ホームページの書き方について教えてください。当センターでは奥付のときの出版社のホームページアドレスについて、ホームページアドレスが1行(32マス)に収まるようであれば、次の行に書くようになっていきます。(小見出し符のあとには1マスあいて、次行の1マス目からアドレス囲み符号をつかってアドレスを書く)

普通であれば、小見出しのあと、続けてホームページアドレスを書き、2行目以降は行頭に行継続符(④の点)を使うと思うのですが。

ホームページアドレスが1行(32マス)に収まるようであれば、行継続符(④の点)を使わずに、書いたほうがいいのでしょうか？

奥付

ホームページ <https://shufunotomo.co.jp>



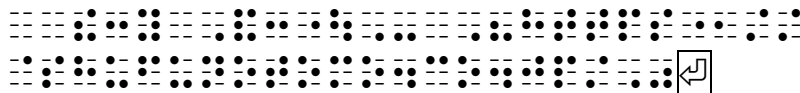
【答え】

「点訳フォーラム」へお問合せいただきありがとうございます。お寄せいただきましたご質問にお答えします。

次行1行に収めるために、小見出し符を付けた行が極端に短くて行末が大きくあいていると気になりますので、小見出し符のあと一マスあけて、ホームページアドレスを書いた方がよいと思います。長いアドレスを意識的に1行に納めるのがよいかどうかについては、一概には言えませんが、2行に分けてもよみにくいということはありませんし、適当なところで区切ってありますので、その方が読みやすいという面もあります。

奥付

ホームページ <https://shufunotomo.co.jp>



お答えは以上です。

「点訳のてびき 140 ページ」参照

暮らしをそのままの自分に寄せて

2021年10月31日 第1刷発行

著者 本多さおり
発行者 平野健一
発行所 株式会社主婦の友社
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア
電話 03-5280-7537(編集) 03-5280-7551(販売)
印刷所 大日本印刷株式会社

©Saori Honda 2021 Printed in Japan ISBN978-4-07-448137-8

■本書の内容に関するお問い合わせ、また、印刷・製本など製造上の不良がございましたら、主婦の友社(電話03-5280-7537)にご連絡ください。
■主婦の友社が発行する書籍・ムックのご注文は、お近くの書店か主婦の友社コールセンター(電話0120-916-892)まで。
*お問い合わせ受付時間 月~金(祝日を除く) 9:30~17:30
主婦の友社ホームページ <https://shufunotomo.co.jp/>

図(日本複製権センター委託出版物)
本書を無断で複製複製(電子化を含む)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書をコピーされる場合は、事前に公益社団法人日本複製権センター(JRRC)の許諾を受けてください。また本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
JRRC(<https://jrcc.or.jp>) eメール:jrcc_info@jrcc.or.jp 電話:03-6809-1281

【質問】星印類の使い方についてのお尋ねです。

原文は次の通りです。(見出しがあって、複数の文献が並んでいます)

■■■■読書案内(引用文献★)

■■『船乗りプクプクの冒険』(北杜夫著、新潮文庫、1971)

■■『遥かな国遠い国』(北杜夫著、新潮文庫、1971)★

...

考え方が2つあってまず、1つ目は

第1星印(☉☉)を使うパターンです。

■■■■ドクショ■■アンナイ(インヨー■■ブンケン) ■■■☉☉■■☉☉■■☉☉■■☉☉■■☉☉■■スル■■☉☉

■■『船乗り■■プクプクの■■冒険』(北■■杜夫■■著、■■新潮■■文庫、■■1971)

■■■■☉☉■■『遥かな■■国■■遠い■■国』(北■■杜夫■■著、■■新潮■■文庫、■■1971)

1つ目は、てびき125ページの星印類(2)をみると、文中に第1星印は使えなさそうなのと、原文は星印は後ろにあるのを、文頭にもってきていいものか。

2つ目は

第3星印(☉☉☉)は語句や文の直後に使うことができるので、

■■■■ドクショ■■アンナイ(インヨー■■ブンケン) ☉☉☉

■■『船乗り■■プクプクの■■冒険』(北■■杜夫■■著、■■新潮■■文庫、■■1971)

■■■■☉☉☉■■『遥かな■■国■■遠い■■国』(北■■杜夫■■著、■■新潮■■文庫、■■1971) ☉☉☉

他に、わかりやす書き方がありましたら教えてください。

【回答】『点訳フォーラム』より

引用文献には星印を付けましたという意味ですね。

行頭3マス目から星印を付ける最初の案が分かりやすいと思います。

■■■■ドクショ■■アンナイ (ホシジルシワ■■インヨー■■ブンケン)

■■『船乗り■■プクプクの■■冒険』 (北■■杜夫■■著、■■新潮■■文庫、■■1971)

■■■■☉☉☉■■『遥かな■■国■■遠い■■国』 (北■■杜夫■■著、■■新潮■■文庫、■■1971)

でよいと思います。

カッコの中に言葉を補いましたが、第1カッコでよいと思います。

読書案内(引用文献★)

『物語日本史 1 日本の国づくりの聖徳太子物語』(平塚武二著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 2 遣唐使物語／羅城門と倭寇』(中沢聖夫著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 3 源平の合戦／三代将軍実朝』(柳山淳著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 4 モンゴル来たる／太平記物語』(滝口康彦・古田足日著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 5 戦国の名持たち／鉄砲伝来物語』(柳田知憲夫著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 6 信長と秀吉／関ヶ原の決戦』(池波正太郎著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 7 ザビエル渡来物語／島原の乱』(劉春吉著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 8 勇将山田長政／赤穂浪士』(稲垣史生著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 9 幕末のあらし／西南の役』(戸川幸夫著、学習研究社、一九六七)
『物語日本史 10 日清日露戦争／大敗北戦争』(高村鶴児著、学習研究社、一九六七)
『船乗りプクプクの冒険』(北杜夫著、新潮文庫、一九七二)★
『遙かな国遠い国』(北杜夫著、新潮文庫、一九七二)
「にぎやかな未来」(筒井康隆著、角川文庫、一九七二)

(質問)

点訳している本で、本文が終わってページ替えて参考文献があります。その参考文献のなかで、原本の書名が「」で囲まれている場合は、そのまま第1カギを用いていいのでしょうか。「」で囲まれている書名をふたえカギにする必要はあるのでしょうか。「てびき」p106【備考】では『』で囲まれている場合はとあるので、原本で第1カギを用いてあれば、わざわざふたえカギに直す必要はないと思うのですが。それとも、会話文や強調にふたえカギが用いられている場合に第1カギに置き換えるのと同じように、書名とわかっているのでふたえカギ置き換えたほうがいいのでしょうか？

また、参考文献で以下のような書名があるのですが、副書名とか調べて、副書名であれば棒線をつかってくださいとことなのですが、著者名とかを調べる際にはサピエ図書館とか利用して書誌を検索するのでわかるのですが、やっぱりきちんと書誌を調べて副書名であれば、原本に副書名扱いではなくてマスアケで書いている場合も、ちゃんと書誌を調べて、副書名として棒線をいれて、点訳すべきでしょうか？

原本の例:杉山春「児童虐待から考える□社会は家族に何を強いてきたか」(朝日新聞出版)

サピエでは書名は「児童虐待から考える」、副書名は「社会は家族に何を強いてきたか」です。

(答え)

「点訳フォーラム」へお問合せいただきありがとうございます。

お寄せいただきましたご質問にお答えします。

原本で、書名に『～』が使われているときだけ、ふたえカギにします。原本で書名が「～」で囲まれている場合は、第1カギを用いて差し支えありません。ふたえカギに変えることはしません。また、参考文献や引用文献は、原本の著者や出版所の見解に従い、統一した書式で書かれるのが一般的ですので、原本に書かれているとおりに書きます。よほどのことがない限り、書き方を変えることはしません。わざわざ副書名を棒線でつないだりすることはありません。

「児童虐待から考える■社会は家族に何を強いてきたか」は

「児童虐待から考える■■社会は家族に何を強いてきたか」と、二マスあけでよいと思います。

『点訳フォーラム』より

参考文献

- ・杉山春「児童虐待から考える 社会は家族に何を強いてきたか」(朝日新聞出版)
- ・鈴木隆雄「日本人のからだ 健康・身体データ集」(朝倉書店)
- ・八木透「出産をめぐる習俗とジェンダー 一産屋・助産者・出産環境」佛教学総合研究所紀要 第15号 2008年(佛教学総合研究所)
- ・小山茂「『タビ(他火)小屋』のタブー」島しょ医療研究会誌 第12巻 2020年(島しょ医療研究会)
- ・前多敬一郎ほか「泌乳中に排卵しないのはなぜか？」生物物理 27巻3号 1987年(一般社団法人日本生物物理学会)
- ・松沢哲郎「ちびっこチンパンジーと仲間たち <171> カメルーンからギニアへ 一狩猟採集民と野生チンパンジーの暮らしの比較」科学 2016年3月号(岩波書店)
- ・荒木勇輝「チンパンジー研究で分かった人間の子育ての本質～松沢哲郎氏に聞く」eduview 2014年9月27日 <http://eduview.jp/>
- ・広井多鶴子「核家族化は『家庭の教育機能』を低下させたか」クォーターリ-生活福祉研究 57号 2006年(明治安田生活福祉研究所)
- ・福士輝美「待機児童対策の20年と現在の課題」レファレンス 794号 2017年(国立国会図書館)

1. 書名

書名	児童虐待から考える
書名読み1	シドウ ギャクタイ カラ カンガエル
書名点字	シドウ ギャクタイカラ カンガエル
副書名	社会は家族に何を強いてきたか
副書名読み1	シャカイ ワ カゾク ニ ナニ オ シイテ キタカ
副書名点字	シャカイワ カゾクニ ナニヲ シイテ キタカ

2. 著者

著者1	杉山春
著者1読み	スギヤマ ハル
著者1点字	スギヤマ ハル
著者1種別	著
著者1種別点字	チョ
著者1標目	杉山/春
著者1標目読み	スギヤマ, ハル

【質問】 カッコで、続けて書くか、1マスあけにするか意見が分かれています。

原本： 今野(浩喜)君、

・文の切れ続きの決まりに従って、コンノ■(ヒロキ)■クン、

・注釈説明と考えると、コンノ(ヒロキ)■クン、

どちらがいいのでしょうか。

【回答】 『点訳フォーラム』より

今野(浩喜)君は、コンノ(ヒロキ) ■クンとしています。

「てびき3版Q&A第2集」Q58に 渡辺(えり子)さん の例がありますので、参照してください。

Q58 人名に続く敬称は区切って書くのが原則ですが、以下の例のように人名がカギやカッコで囲んである場合は敬称を続けて書いてもよいのでしょうか。

渡辺(えり子)さん 「渡辺(えり子)」さん

カギ類、カッコ類の後ろは分かち書きの規則に従って書き表しますので、ご質問のような例は「さん」の前を区切って書きます。

ワタナベ::エリコ::□サン

::ワタナベ::エリコ::::□サン

「てびき3版Q&A第2集」Q58より

読書によって「概念変換法」を身につけると、文化を変える新たな概念が手に入る

私はアイデアを出すとき、 $y \parallel f(x)$ という関数の式で発想することがよくあります。

関数とは「ある変数に依存して決まる値、あるいはその対応を表す式」のことです。 $y \parallel f(x)$ は、 x に何らかの数字を入れると、 f という規則に従って y の値が決まってくることを示しています。

この $y \parallel f(x)$ を様々なジャンルに応用すると、いろいろなものが見えてきます。

第4章 記号類の使い方(7)

その7 体系の異なる点字表記

49. p141 3. 数学記号

一般書に出て来る数式です。

$$y=f(x)$$

外 y ■イコール■外 f (外 x)

$$XA+XB+XC$$

外 XA ■プラス■外 XB ...

となりますか。

【A】

$y=f(x)$ は、単純な四則計算ではなく、関数を表しているのので、数学記号を用いて書いた方がよいと思います。『てびき P142』

$$\textcircled{5}\textcircled{6}y\textcircled{2}\textcircled{5}\textcircled{2}\textcircled{5}f\textcircled{2}\textcircled{3}\textcircled{6}x\textcircled{3}\textcircled{5}\textcircled{6} \Rightarrow \dots$$

となります。 $\textcircled{5}\textcircled{6}$ の点は、最初に一つだけ書き、後ろの f や x には、 $\textcircled{5}\textcircled{6}$ の点は付けません。また (x) のカッコは、外国語引用符と同じ形になります。

特殊な数学記号を用いているわけではありませんので、点訳書凡例等で断る必要はありません。

$XA+XB+XC$ は、

$$\text{外}XA\text{■}\text{プラス}\text{■}\text{外}XB \dots \Rightarrow \dots$$

と書いて良いと思います。

ただ、この二つの数式が、同じ原本の中にあり、これ以外にも多くの数式が出てくる場合は、点訳書凡例で断って、数学の点字表記で書いてもよいかもしれません。

「点訳フォーラム」より